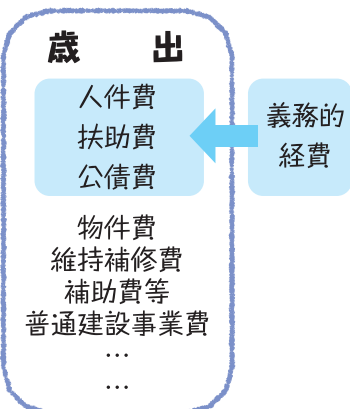


「義務的経費」とは？

類似団体との比較 (H22年度決算比較)

(単位：百万円)

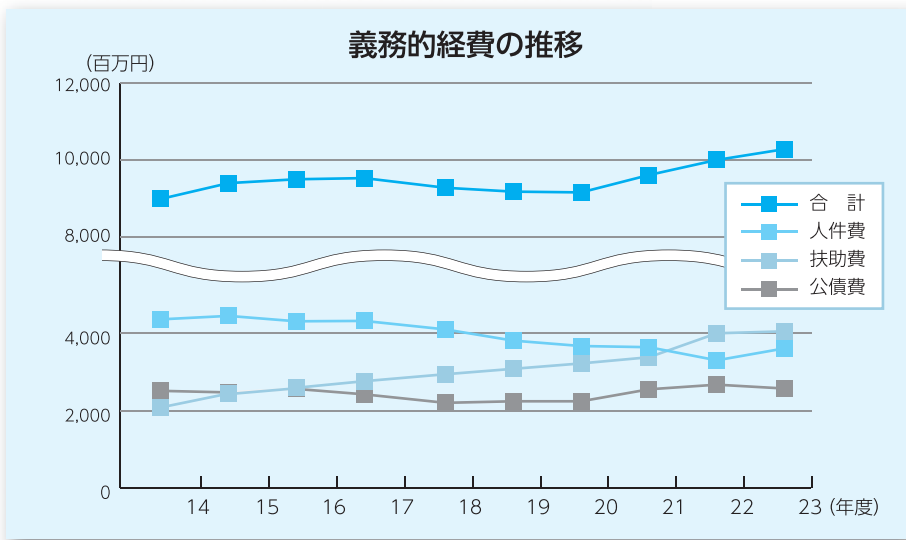
		塩竈市	類似団体
義務的経費	人件費	3,306	3,442
	扶助費	4,001	4,255
	公債費	2,672	2,185
合計 (a)		9,979	9,882
歳出合計 (b)		20,252	19,602
割合 (a/b)		49.3%	50.4%



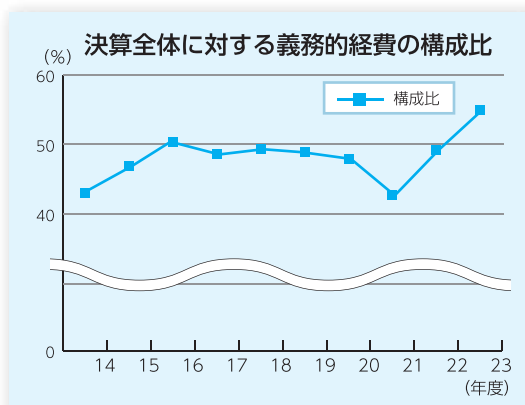
ねえ、「義務的経費」ってなに？
役所の決算のなかで、職員給料などの「人件費」、生活保護や福祉関係の費用の「扶助費」、過去の借金返済のための「公債費」の三つの経費のことよ。これらは絶対に支払わなければならない性質の経費で、この経費の割合が高いと財政が硬直化しているって言われるの。

塩竈市はどんな状況なの？
過去から現在まで、決算全体に対してだいたい45〜50%程度で推移しているわ。でも、平成23年度は震災の影響で一時的に54%台が上がっているのよ。

硬直化しているってこと？
全国の類似団体も50%程度だから、全国と比べて平均的だとは言えるかもしれないけど、歳出全体の半分が絶対に支払わなければならない経費ってことは、決して良いことではないわ。でもね、それぞれの経費を見てもみると、これまで歳出抑制のために努力してきた結果も見えてきているのよ。



問 財政課財政係 内線 2382239



へえ。どんなふうにな？
まずは人件費だけど、これまで職員数の適正化を図ってきた結果、着実に減少してきているの。それと、公債費についても、大きな公共事業の選択を図ってきた結果、借金返済の額が減少に転じているわ。

扶助費は増えているみたいだね。
そうね。年々増加傾向にあるわ。平成22年度には子ども手当がスタートして、制度が拡大されたことも大きいわね。でも、扶助費はその性質上、福祉サービスの拡大や子ども世代への手当支給など、直接市民サービスに影響する費用だから、必ずしも減少するのがいいとは言えないのよ。

そっか。じゃあ、義務的経費のなかで、努力して生み出した財源を福祉サービスの充実のために使っているとも言えるんだね。

※表の数値は、年度間比較を表現するため、特殊要因（地方債借換による公債費や震災に関連した義援金、見舞金など、財源が伴う一時的な歳出増要因）を除いて表現しています